



カタカタ通信

第234号

2026年6月22日

「巣落ち…から巣立ちへ」

恋に落ちたり、寝落ちしたりは心地よいようですが…、今回は“巣落ち”のお話。5月末の土曜日の午後、観察カメラの映像を見ていたら、1羽の



自力でもどった足環:緑(右)

ヒナが巣の下に！慌てて見直した映像では、親が飛び立つときに一緒に降りたように見えました。ヒナの歩様なども問題なさそうでしたが、翌日別角度のカメラでよ〜く確認すると、親が飛び立つときに巻き込まれて下に落ちたようでした。2時間後には、餌やりパイプの上のスロープを上がって、自分で巣に戻っていきました。

ヒナも立派に成長したので、巣立ちを促すため、親がヒナへ与える餌の量は減っていくのではないかと考えていました。しかし、巣落ちから10日経っても、親からの給餌量が思ったより減らなかったため、親への給餌量を少しずつ減らしていきました。その間にも、ヒナは巣の上でばたばたと羽ばたき、飛ぶ練習をする時間がどんどん増えてきました。

71日齢を迎える土曜日の午後、巣台から伸びる止まり木の先で1羽が羽ばたいていると、バランスを崩し、下に降りました。これは“巣立ち”でいいのか



止まり木の先でバタバタ！そして…

な…？と、以前の巣落ちが頭を過りましたが、その後、奥の巣台に上手に飛んでいくことができました。巣材をくわえてみたり、いじってみたり。しばらくするとそこから降りましたが、降りるのはまだ下手なようです。続いて池に入ってみて、中にある餌のアジを軽く啜ってみます。この時は食べるまではいきませんでした。挑戦が大事です。

14時頃に池へ給餌すると、今度は親と一緒にワカサギを食べることができました。親が巣に残るもう1羽のヒナの元へ行くと、親について一緒に巣に戻り、親が吐き出した餌ももらっていました。いつもより、若干遠慮気味に食べているように見えました。そこからしばらく巣台にいましたが、16時前には再び巣から降りました。今度はちゃんと飛んで降りることができました。着地には、まだまだ伸びしろがありそうです。今回の巣立ちが、もし野外の巣塔だったら…、とは考えないことにします。



無事に巣立ちした足環：緑

いつも巣台の上で2羽一緒だったヒナたち。今回1羽が巣立ちを迎え、別々に過ごすことになりましたが、空と花は分担するように1羽ずつに寄り添っていました。その後も、少し離れては近づいてきたり、離れても視線は向けていたり、まさに見守っているようです。

もし野外で野鳥のヒナを見つけても、手は出さずにそっとしてあげてください。空と花のように、少し離れて親鳥が見守っているかもしれません。

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター
飼育担当：最長老